



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

## 1. 高温下で開花が抑制されにくい夏秋小ギク品種の選定

### [要約]

電照による開花抑制効果が高い品種に対して高温処理（25℃加温、35℃換気）を行うと、すべての品種で開花が遅延する。電照による開花抑制効果の高い「精ちぐさ」、「精しずえ」及び「すばる」は、高温による開花抑制程度が比較的低い。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

---

### [背景・ねらい]

これまでに岡山農研では、コスト削減、軽労働化を目的に、同一品種による小ギクの夏秋需要期連続出荷を目指して、電照による発蕾抑制効果が高い品種を選定している。一方で、小ギクの夏秋需要期への安定出荷のためには、高温下で開花が抑制されにくいことが重要である。そこで、電照による発蕾抑制効果が高いとして選定した小ギク品種について、高温下の開花抑制程度を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 電照による発蕾抑制効果が高いとして選定した9品種及び発蕾抑制効果がやや高いとした2品種を、7月中下旬出荷作型で、一方は露地で栽培し、一方はビニルハウス内で高温処理を行いながら栽培すると、高温処理によって、発蕾日及び開花日が概ね遅延するが、その程度には品種間差がある（表1、表2）。
2. 「精ちぐさ」、「すばる」、「精しずえ」の開花遅延程度は比較的小さい（表1、表2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 7月中下旬出荷作型において、6月1日まで電照（22～4時）を行い、6月1日から調査終了時まで終日高温処理（25℃加温、35℃換気）を行った結果である。実際に露地圃場で栽培する場合には、これほどの開花遅延は発生しない。
2. 対照品種「精雲」は、実際に高温のビニルハウス内における電照抑制栽培で計画どおりの出荷が可能であり、対照品種と同等以下の開花遅延程度であれば、露地の高温条件下での電照抑制栽培への利用可能性は高い。
3. 岡山県赤磐市における結果であり、各産地での適応性の検討が必要である。



## [具体的データ]

表 1 高温処理が夏秋小ギクの発蕾及び開花に及ぼす影響（2015年）

品種	平均発蕾日			平均開花日			節数		
	無処理 (月/日)	高温 処理 (月/日)	発蕾 遅延 日数 (日)	無処理 (月/日)	高温 処理 (月/日)	開花 遅延 日数 (日)	無処理	高温 処理	増加 節数
精ちぐさ	6/22	6/21	-0.3	7/21	7/31	9.9	49	49	-0.6
精しずえ	6/24	6/23	-1.1	7/23	8/10	17.8	56	55	-0.9
すばる	6/25	6/26	0.3	7/23	8/10	18.3	45	48	2.3
はるか	6/24	6/29	4.8	7/23	8/15	23.7	42	41	-0.6
ほたる	6/21	6/25	4.4	7/18	8/18	31.2	49	47	-1.7
さぬき	6/26	7/3	6.6	7/21	8/27	37.0	54	70	16.3
ちづる	6/20	6/24	3.2	7/20	8/26	37.3	38	38	-0.1
精こまき	6/21	6/29	8.9	7/19	8/30	41.9	51	52	1.9
精しらいと	6/22	7/1	8.4	7/26	9/18	54.3	54	58	4.1
精雲（対照）	6/22	6/24	1.8	7/20	7/30	10.2	42	44	1.9

注）7月中下旬出荷作型において、6月1日まで電照（22～4時）を行い、6月1日から調査終了時まで終日高温処理（25℃加温、35℃換気）を行った結果である。

表 2 高温処理が夏秋小ギクの発蕾及び開花に及ぼす影響（2016年）

品種	平均発蕾日			平均開花日			節数		
	無処理 (月/日)	高温 処理 (月/日)	発蕾 遅延 日数 (日)	無処理 (月/日)	高温 処理 (月/日)	開花 遅延 日数 (日)	無処理	高温 処理	増加 節数
精ちぐさ	6/22	6/23	0.8	7/22	8/8	17.3	36	37	0.3
すばる	6/24	6/27	2.3	7/24	8/12	18.2	33	36	2.9
精しずえ	6/23	6/27	3.3	7/26	8/17	22.4	42	44	1.8
はるか	6/23	6/27	4.2	7/24	8/18	24.9	28	29	1.4
さぬき	6/25	6/27	1.5	7/28	8/23	26.5	43	48	4.8
こがね	6/23	6/26	2.8	7/27	8/26	29.4	34	35	0.8
精かのか	6/24	6/29	5.3	7/27	8/27	30.9	42	46	4.4
ほたる	6/25	7/5	10.7	7/26	9/4	40.0	35	40	4.6
精こまき	6/22	7/4	11.6	7/26	9/16	51.7	37	45	8.3
ちづる	6/21	6/29	8.0	7/24	9/16	54.0	29	30	1.2
精しらいと	6/22	7/2	9.7	7/30	9/30	61.7	39	42	3.0
セイパレット（対照）	6/24	6/24	0.6	7/31	8/13	13.2	34	35	1.0
精雲（対照）	6/21	6/24	2.6	7/22	8/4	13.2	32	34	1.5
岩の白扇（対照）	6/22	6/27	5.1	7/24	8/23	30.0	30	33	3.1
セイアイシス（対照）	6/29	7/3	4.1	8/1	9/1	31.3	43	45	2.2
セイアドリア（対照）	6/20	6/28	7.3	7/17	8/19	33.0	29	32	2.3

## [その他]

研究課題名：周年安定生産を可能とする花き栽培技術の実証研究

予算区分：受託

研究期間：2013～2017年度

研究担当者：森義雄

関連情報等：[平成28年試験研究主要成果、65-66](#)